

第18回持続可能性ディスカッショングループ

日 時：令和3年1月26日（火）10時30分～12時08分

場 所：WEB会議システムによる開催

出席者：小宮山委員長、崎田座長、相馬委員（小西委員代理）、関委員、陳委員、
土井委員、中村委員、藤野委員、林委員、永島委員、上野委員、上田委員

○荒田持続可能性部長 おはようございます。皆様、本日は御多用の中、御参加いただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、第18回持続可能性ディスカッショングループを開催いたします。

まず初めに、副事務総長の山本から御挨拶させていただきます。

○山本副事務総長 おはようございます。副事務総長の山本でございます。本日は大変お忙しい中、第18回のディスカッショングループに御参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大に伴いまして、2020大会は、オリンピック・パラリンピック史上初の延期ということになりました。大会の延期というのは、私ども組織委員会にとっても、非常に困難な決断となりましたけれども、昨年の3月の決定以降、様々な取組をしてまいりました。

まず、新たな大会の位置づけというものを策定いたしまして、6月のIOC理事会に提出をいたしました。同一会場、同一日程という原則の下で、会場、それから競技日程を各会場所有者の皆様、あるいはIOCの皆様と綿密な協議を進めながら、決定をしたところでございます。そして、秋になりまして、9月でございますけれども、国の主導によりまして、国と東京都、組織委員会、さらにはJOC、JPCにも御参加いただきまして、コロナ対策の調整会議というものを立ち上げたところでございます。安全・安心な大会開催に向けまして、対策の議論を具体的に行ってまいりました。12月2日でございますけれども、この中間の整理というのをまとめました。そして、次いで12月4日の日に、この開催の延期に伴う経費、それからコロナ対策に伴う追加経費、これを取りまとめるなどいたしまして、着実に準備を進めてまいったところでございます。

現在におきましても、感染状況等、厳しい状況ではございますけれども、どのようにすれば国民の皆さんの理解を得て、大会を安全・安心な形で実施できるかということをし

っかり考えて、その実現に向けて努力していくことが私たちの使命であるというふうに考えております。

オリンピックの開会まで、あと半年を切っております。課題はまだ多くございますけれども、多くの大会の関係者の皆様とワンチームで、しっかり努力をしまいたいというふうに思っております。

これまで委員の皆様と共に進めてまいりました、持続可能性の意義というものにつきましては、延期後の大会においても、いささかも変わるものではないというふうに思っております。先ほど申し上げましたとおり、延期後の新たな大会の位置づけにつきまして、6月のIOC理事会に提出をしたというふうに申し上げましたけれども、ここにおきましても、大会の理念として持続可能性を掲げ続けているところでございます。そして、組織委員会におきましても、ISOを掲げまして、改めて8月から9月にかけて審査をしていただきまして、適切にこの持続可能性のマネジメントシステムに基づいて運営をしているということを確認していただいたところでございます。これも、併せて御報告をさせていただきます。

本日でございますけれども、延期後の大会において、いろいろと取り巻く環境あるいは必要な取組というものも変化してくるだろうということを認識しております。こういうことを認識しながら、着実に進めてまいりました、持続可能性に関する取組をしっかり発信するために、大会前報告書の追補版の案を策定したところでございます。私どもの取組を社会やほかの大会にしっかりと伝えてまいりたいと思っております。

本日は、委員の皆様のご理解のない御意見を賜りますようお願いいたしまして、冒頭、私の御挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

○荒田持続可能性部長 ありがとうございます。なお、山本副事務総長は、業務の都合のより、これにて退席させていただきます。

本日は、新型コロナウイルス対策の観点で、リモート開催とさせていただいておりますので、会議の運営方法について、御説明いたします。

御発言される場合は、会議システムの手を挙げる機能を活用いただきまして、座長より指名されましたら御発言ください。なお、御発言をチャット機能で行うことは、お控えいただきますようお願いいたします。また、接続の安定性を高めるため、御発言される場合を除いて、カメラの機能を使用しないようお願いいたします。

資料は事務局で投影、画面の共有をいたしますが、投影した画面のほか、必要に応じて事前にお配りしている資料も御確認ください。

このディスカッショングループは、メディアの皆様にも公開としております。メディアのほか、国、東京都、組織委員会の職員も、このTeams上で傍聴いただいております。

本日は、崎田座長をはじめ、各委員の皆様に加え、小宮山委員長並びに国及び東京都から御参加いただいております。

なお、今回から日本労働組合総合連合会の丸田満次長から陳浩展委員に変更になっております。また、関係行政機関委員につきましては、今回から内閣官房の諸戸修二統括官から林俊宏委員に、東京都オリンピック・パラリンピック準備局の関口尚志部長から上野正之委員に、東京都環境局の若林憲部長から上田貴之委員に変更になっております。

それでは、以降の議事進行につきまして、崎田座長をお願いいたします。

○崎田座長 おはようございます。崎田です。それでは、議事の進行をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど、副事務総長から御挨拶いただきましたが、コロナの大変な時期ですけれども、粛々とお進めいただいているということで、非常に安堵いたしました。最近、様々な報道で、アスリートの方も一生懸命準備を進めておられるというような情報が増えてまいりました。こういう皆さんの思いをしっかりと世界の皆様と発揮していただくためにも、このオリンピック・パラリンピックの準備をしっかりと進めていただきたいと思っております。

なお、持続可能性に関して、これまでと変わることなくしっかり取り組むと、力強く御挨拶いただきまして、大変ありがたく思いますが、私から一言申し上げれば、ここ半年、1年の間で、やはり、アフターコロナはしっかりとグリーン成長で取り組むのだということが世界の認識になってきております。特に日本の中でも、2050年、脱炭素を明確に宣言するとか、SDGsの考え方が非常に浸透してきた、様々な今まで以上の期待感が高まっているというふうに感じております。ぜひ、そういう思いもしっかりと受け止めて、準備に関わっていただければありがたいというふうに思っております。

本日も、多くの委員の皆さんが御参加いただいておりますので、しっかりと御発言いただき、それを準備に生かしていただければありがたいと思います。

なお、小宮山委員長も、今日、御参加いただいているということで、ありがとうございます。委員長には、様々なところで、どんどん御発言いただきたいというふうに思いますが、委員長、最初に一言というのはいかがですか。

○小宮山委員長 どうもありがとうございます。小宮山です。私もできるだけ発言しますが、委員の皆さんも随分いろいろあちこちで発言されているのは伺っており、大変

頼もしく思っております。持続可能性、地球という問題と人という問題と社会という問題、この三つから考えてきて、SDGs、ESGといったものも大きな方向としては、これと一緒にすから、ぜひ今後もこれまでどおり頑張っていきたいと思います。委員の皆様、どうぞよろしく願いいたします。

今日、私、途中で退出するかもしれないので、どうもありがとうございました。

○崎田座長 ありがとうございます。また、いらっしゃる間は、どうぞ御発言機能で意思表示をしていただければありがたく思います。

○小宮山委員長 ありがとうございます。

○崎田座長 どうもありがとうございます。急をお願いいたしまして、失礼いたしました。

それでは、議事に入っていきたいというふうに思っておりますが、それでは、荒田部長のほうから、今日の議事の説明をもう一度お願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○荒田持続可能性部長 はい、承知しました。崎田座長、小宮山委員長、ありがとうございました。

本日は、持続可能性大会前報告書追補版案の方向性について、御説明いたします。まず、事務局から説明をいたしました後、委員の皆様には御議論いただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

○崎田座長 ありがとうございます。

それではまず、資料2ということでまとめていただいておりますので、これの御説明を全部していただいて、それから、皆様からいろいろ御質問、御意見、伺いたいというふうに思っております。

では、事務局、どうぞよろしく願いいたします。

○大谷持続可能性企画課長 持続可能性部持続可能性企画課長の太田でございます。私のほうから資料2、持続可能性大会前報告書追補版の方向性について、御説明をさせていただきます。本日、時間も限られておりますので、資料の概要のみとなりますけれども、御説明をさせていただければと思います。また、資料の投影をさせていただきますけれども、併せてお手元の資料等も、必要に応じて御確認いただければというふうに思っております。

では、早速、1ページ目の御説明から入りたいというふうに思います。今回の持続可能性大会前報告書追補版についてですけれども、私どもでは、大会延期前から大会の準備フ

ェーズに応じまして、3回の報告を予定しております。具体的には、この1スライド目の真ん中より下にございますとおり、進捗状況報告書から大会後の報告書までの三つを予定しております。昨年4月には、この真ん中にございます大会前報告書を作成し、公表させていただいたところでございます。

今回、新型コロナウイルス感染症の拡大及び大会の延期によりまして、大会の準備にも様々な変更等が生じておりますことから、今回、大会前報告書に追補すべき取組を新たに御報告していきたいということが今回の追補版の特徴というところでございます。具体的には、この赤い点線の中に書いてありますように、大会前報告書を全体的に網羅した報告書に、今回新たなものを補うという資料でございます。公表時期としましては、今年の春頃を予定しているところでございますけれども、各種取組の具体化の状況等も踏まえまして、公表の時期を決定したいというふうに考えてございます。

次のページ、お願いいたします。今、御説明した内容について、図示したものでございます。この真ん中よりやや右側にありますとおり、今回作成する追補版については、大会前報告書と一体として成立するというものでございます。また、大会後にも、大会後の結果を取りまとめた報告書を作成する予定でございます。

次のスライド、お願いします。現在、考えております追補版の構成案について、御説明をいたします。特に持続可能な社会のショーケースへの取組ということで、今回、延期になった後の取組以外にも、これまで大会の準備の期間で私どもが取り組んできた持続可能性の様々な取組についても、今回、しっかり発信をしていくことが大切であるというふうに考えておりまして、この追補版の冒頭においても、これまでの取組をしっかりと発信してまいりたいというふうに思っております。

1番からが具体的に追補版の内容になっておりまして、まず最初に、新たな大会の位置づけや本追補版の概要について、御説明をする予定でございます。その次に、私どもがこれまで掲げてきた持続可能性の主要テーマについてお話をし、その次に、延期後の組織や準備状況の概要を御説明する予定でございます。その後、4番におきまして、主要テーマ、各五つと調達に関する進捗状況について、御説明をしていくという構成になってございます。

次のページ、お願いいたします。具体的に、新たな大会の位置づけと持続可能性についてでございます。先ほど申し上げましたとおり、これまで皆様と共に持続可能な社会のショーケースとなる取組を推進し、発信をしてきたところでございます。また、冒頭、副

総長からも御挨拶をさせていただきましたとおり、新型コロナウイルスの感染症については、持続可能性に限らず、様々な側面に影響を与えているものでございます。ただ、一方、大会運営においても影響がある中でも、東京2020大会における持続可能性の重要性自体は変わるものではないというふうに考えております。引き続き、これらの社会の変化もしっかりと認識をした上で、私どもの取組を取りまとめて、また皆様の行動促進ができるよう発信をしてまいりたいと考えております。

次のスライド、お願いいたします。持続可能性の主要テーマということで、五つの主要テーマと、横断的なテーマとして、調達やサプライチェーンの管理を掲げているものでございます。これらの取組につきましては、引き続き、これらのテーマに沿って、あらゆる局面での持続可能性の配慮を推進していくところでございます。

一方、これらがどのように大会の延期後に影響があるのかというところを、今回の追補版にて御報告をしていくというところでございます。

次のスライド、お願いいたします。大会開催に向けた準備状況ということで、延期後の主な取組を改めて御説明させていただきます。昨年3月24日に大会の延期を決定いたしまして、その後、3月30日には、新たな開催日ということで、約1年後の開催日程について、IOCからの承認を得たところでございます。6月には大会の位置づけや原則、また今後の進め方を表しておりますロードマップを公表させていただいております。こちら、冒頭でも御挨拶で述べさせていただきましたとおり、延期後につきましても、共通理念におきまして持続可能性に重点を置くなど、引き続き、持続可能性については取り組んでいくということを改めて表明しております。

次のスライドでございます。7月、それから8月におきまして、それぞれオリンピックとパラリンピックの競技スケジュールを発表しております。また10月には、大会の簡素化状況をIOCに報告をしております。具体的な例としまして、ここに挙げておりますとおり、仮設の施設の見直しやルックの削減などの取組を進めてきているところでございます。これらの取組は、持続可能性の方向性とも合致するものというふうに考えてございます。

また、新型コロナウイルス感染症対策という面では、政府や東京都とも連携をさせていただきまして、この調整会議の中間整理を12月にまとめたところでございます。アスリートや関係者、観客の順に、各場面における対策を整理したものでございまして、今後、大会時のオペレーションの準備を進めて、必要な対策を具体化していくというところでございます。

次のスライド、お願いいたします。私ども組織委員会の組織体制の面でございます。組織体制といたしましては、一旦、延期に伴いまして、大会運営体制の移行を見送りながら、感染症対策への影響も考慮しながら、継続的に人員体制の見直しを行ってきているところでございます。また、出勤体制というところにおきましても、感染防止の観点から必要な取組を行っておりまして、今年1月の緊急事態宣言後におきましても、政府及び東京都の方針を踏まえて、テレワークを含めた様々な方策に取り組んでいるところでございます。

また、持続可能性をはじめとする五つの委員会におきましても、延期に伴いまして、設置期間を今年末までに延長させていただき、引き続き、御議論をいただきたいというふうに思っているところでございます。

次のスライド、お願いいたします。ここから持続可能性についての取組を御説明させていただきます。まず、持続可能性マネジメントシステムについてでございますけれども、私どもは、イベントの持続可能性をサポートする規格でありますISO20121を導入しておりまして、2019年に認証を取得しているところでございます。そして、昨年夏に維持審査が行われまして、引き続き、この規格に即して適切に運用されていることが確認されているところでございまして、大会に向けまして、引き続き、適切に運用してまいります。

次のスライド、お願いいたします。ここから各主要テーマについて、御説明をさせていただきます。

気候変動につきましては、政府におきまして、昨年10月、2050年のカーボンニュートラルへの挑戦ということも表明されておきまして、脱炭素化に向けた取組が加速をしているところでございます。私ども、東京大会におきましても、延期により様々な影響も生じているという可能性がございますけれども、引き続き、CO₂の排出削減や増加をできるだけ抑えるような取組を継続しているところでございます。具体的な取組としましては、資料の下にありますように、カーボンフットプリントの影響を把握しているというところでございまして、今まさに、先ほど御説明いたしました大会の簡素化や大会の延期、コロナウイルス感染症対策等の影響を踏まえまして、排出量の再算定を行っているところでございます。

次のスライド、お願いいたします。カーボンオフセットの取組というところでございます。東京都及び埼玉県の御協力をいただきまして、カーボンオフセットに向けてのクレジットを募集していただきました。結果といたしまして、200以上もの事業者の方に参加

をいただきまして、大会前の報告書時点で算定したカーボンフットプリントを上回るクレジットが既に集まっているというところでございます。

また、再生可能エネルギーの活用という面では、大会運営電力の100%の再エネ化の実現に向けて、現在も進めているところでございます。

また、水素利用に関しましては、昨年10月に、晴海地区に水素ステーションを開所されるとともに、東京都の取組として、選手村内に選手向けの休憩施設も設置される予定でございまして、大会に向けて準備が進んでいるところでございます。

続きまして、資源管理の分野でございます。この分野におきましても、資源循環を促進する様々な取組を進めてきたところでございます。特に新型コロナウイルス感染拡大防止を図る中で、安全・安心の観点からも、この廃棄物の分別というところが非常に重要になってきているというところでございます。

具体的な取組としては、次のページでございすけれども、運営時廃棄物の目標といたしましては65%のリサイクルを掲げておりまして、この達成に向けまして、それぞれ廃棄物の種別ごとのリサイクルを進めているところでございます。また、先ほど、分別が非常に重要だということを申し上げたところですが、観客の皆様や大会関係者の方々に分別の周知をさらに強化をしていくというところを予定してございます。

調達物品に関しましては、99%のリユース、リサイクルの目標を掲げております。具体的には、大会前から、公共用の後利用先の募集ですとか、有償譲渡が見込まれる機器等を一括して売却する仕組みなどを活用いたしまして、リユースの促進を図っているところでございます。

また、冒頭のほうに申し上げました簡素化によりまして、資源利用の縮減も進めているところでございます。

次のスライド、お願いいたします。三つ目のテーマであります、大気・水・緑・生物多様性等でございます。この分野におきましても、様々な主体の御協力を得ながら、暑さ対策や水環境の改善等を進めてきたところでございます。また、新型コロナウイルスの感染拡大も踏まえて、また、延期により生じた期間も活用しながら、取組をさらに進めているというところでございます。

具体的には、暑さ対策でございますけれども、専門家の意見もいただきながら、夏場を開催されるということで、暑さ対策と、このコロナ対策との両立を図っていくべく、準備をしているところでございます。

次のスライドでございます。水環境の配慮におきましては、お台場海浜公園におきまして、水流発生装置の運用実験を行ってきたところでございます。今後、これらの検証も行いまして、従来から設置予定のスクリーンなどと併せまして、大会に向けての取組を推進してまいります。

生物多様性の観点におきましては、釣ヶ崎サーフィンビーチにおきまして、昨年夏に、地元の方々とも協力をしながら、ウミガメの産卵場所等の保護策を講じてまいりまして、実際に卵がふ化したというところも確認をしております。引き続き、こういった動植物の保護と競技運営等を両立すべく、準備を進めてまいります。

また、安全を確保するという面では、外来生物対策として、ヒアリの生息調査を実施しているところでございまして、こういったところも引き続き、大会に向けて準備を着実に進めてまいります。

続きまして、人権・労働、公正な事業慣行等についてでございます。政府におかれましては、ビジネスと人権に関する行動原則が策定をされたというところが動きとしてございます。また、社会におきましても、黒人差別の反対運動ですとか、また、スポーツにおける様々な人権に関する問題提起がなされておりました、社会における人権に関する意識も高まっているというふうに考えております。

また、新型コロナウイルス感染症を契機といたしました格差や人権問題等も非常に問題となっております、大会におきましても、これらの状況を考慮しながら、準備を進めてまいりたいというふうに思っております。

具体的には、次のページ以降で御説明をしてまいります。従来からダイバーシティ&インクルージョンの取組を進めているところでございます。大会に関わる様々な方々が活躍できるような環境を進めております。先ほど申し上げた職員に加えまして、ボランティアの方々とも、引き続き、延期後もコミュニケーションを継続しているところでございます。また、運営の面におきましても、例えばセキュリティチェックにおきまして、多様性の配慮や感染症対策も踏まえた方策を実験するなどの取組も行っております。

また、関係者の皆様の取組としましては、「プライドハウス東京レガシー」というところで、昨年10月にLGBTQに関する交流スペースが開設されておりました、過去大会でもプライドハウスは設置されておりますけれども、組織委員会の公認の取組としては、史上初の取組として、このようなことも進められているところでございます。

また、次のスライドですけれども、アクセシビリティの確保や労働環境の配慮という

ところも実践しているところでございます。さらに、会場における人権対応というところが今後、大会本番に向けて重要になってくるところでございます。こちらにつきましては、このガイドラインを作成いたしております。こちらにつきましては、タスクフォースというところで約2年間にわたりまして、スポーツと人権分野の専門家の弁護士の皆様等から多大な御尽力をいただきまして、作成をしてきたところでございます。また、延期後には、近年の人権意識の高まり等も踏まえた観点も、さらに追加をしているところでございます。これらは、これから大会本番に向けまして、まさに職員やスタッフ等の教育・訓練等で具体的に活用しながら、対応の向上に努めてまいりたいというふうに思っております。

五つ目のテーマであります、参加・協働、情報発信でございます。これまでメダルや表彰台をはじめとする様々な参加型プロジェクトを展開してまいりまして、また、その成果を発信してきたところでございます。現在、新型コロナウイルス感染拡大によりまして、エンゲージメントに様々な制約が発生しているところでございますけれども、こういった中でも、適した方法を模索しながら普及啓発を実施してきているところでございます。今後も、ステークホルダーの皆様と協力しながら、人々の行動変化のきっかけとなる発信を実施してまいりたいと思っております。具体的な施策といたしましては、関係機関や大会パートナーの皆様と連携しながら、大会装飾のリユースでありますアップサイクルに向けた検討を、この延期後の期間でも進めているところでございます。

また、次のスライドですけれども、みんなの表彰台プロジェクトということで、大会パートナーでありますP&G社の協力も得ながら、約2,000店舗、113校の各学校、それから各種団体の皆様にも御協力いただきまして、合計24.5トンのプラスチックの回収を実現することができております。今後も、大会に向けまして、この取組の意義や成果を発信してまいりたいというふうに思っております。

また、持続可能性に関する情報発信の観点では、中高生や大学生と共に持続可能性を考える機会を提供すべく、このようなワークシートや講座などの取組を行っているところでございます。

また、今後の大会関係者へのレガシーにつながるものとしまして、北京2022大会の持続可能性の関係者との対話も、開始をしているところでございます。今後、パリの大会ですとか、今後の大会も含めた関係者とのコミュニケーションについて、進めていきたいというふうに考えております。

最後に、持続可能性に配慮した調達について御説明いたします。組織委員会では、持続

可能性に配慮した調達コードの実施を通しまして、サプライチェーンにおける持続可能性配慮を推進してきたところでございます。大会延期後におきましても、調達コードは延期前と同様に推進をしております、引き続き、適切に運用してまいりたいというふうに考えております。具体的には、真ん中より下にありますように、通報受付窓口の実施状況ということで、昨年11月末時点で、計12件の通報を受け付けております。対象案件となったものにつきましても、専門家の御助言もいただきながら対応を進めまして、その対応自体は完了をしてございます。また、この延期期間におきましても、この通報窓口を知っていただくための通報窓口の対象や手続の流れについて解説する資料等を作成して、普及啓発に努めているというところでございます。

次のページでございます。具体的な施策といたしまして、ILOと2018年4月にディーセント・ワークを推進するための協力に関する覚書を締結しているところでございます。ILOでは、新型コロナウイルスに関連いたしまして、安全で健康的な労働環境を守るための実践的なツールなどを御紹介いただいております、組織委員会でも、こういった取組も御紹介して、協力しながらディーセント・ワークの推進を進めているところでございます。

持続可能な消費の推進という観点におきましては、日本でも、持続可能な調達に係る企業の実践的な取組というのが非常に向上してきているところでございます。より多くの企業が継続して取り組むよう促す意味で、消費者の役割も非常に重要となっております。このため、組織委員会としても、この持続可能な消費に関する認証制度等の紹介をする資料も作成して、普及啓発に努めているところでございます。

資料の説明につきましては、以上でございます。

○崎田座長　ありがとうございます。全体を一気に御説明いただきました。どうもありがとうございます。

それで、皆さんから御質問、御意見などを伺いたいというふうに思うのですが、これからの時間、全部使っていきますので、できましたら、最初は8ページか9ページぐらいまでの、いわゆる組織全体に関わるところで御質問、御意見などがあればお伺いし、それがひと区切りしたところで、後半の10ページ頃からの気候変動、あと資源管理とか、個別のところに入っていただければというふうに思います。そういう進め方で、本当はよろしいですかと言って、皆さんに御意志を確認したいのですが、なかなかそういうわけにいきませんので、すみませんが、そういう形で進めさせていただきたいと思います。よろしく願います。

それで、挙手機能を使ってサインを送っていただければと思いますが、私がなかなか気づかないなというときには、事務局から私のほうにうまくサインを送っていただければありがたいというふうに思います。

まず、前半のほうで皆さんのほうから御質問、御意見などがあれば、というふうに思います。いかがでしょう。

前半のほうは、なかなかお声が出ていないようですが。それでは、すみません、私のほうから、ちょっとコメントをお願いしたいと思うのですが、関係行政機関から出てきてくださっている皆さんは、この全体のところはかなり今、一生懸命関わってくださっていると思うのですが、この時期、皆さんが強調しておられること、あるいは社会に発信したいこと、簡単にあれば、コメントいただければありがたいなというふうにと思いますが、林さん、永島さん、上野さん、上田さん、どなたからでも結構ですけれども、何か一言、お声を頂戴できればありがたいなというふうに思います。

林さん、いかがでしょうか。

○林委員 御指名ありがとうございます。内閣官房の林です。よろしくお願いします。御無沙汰しております。

スケジュールというところ、全体というところなのですけども、まず現状、今、オリパラのコロナ対策に関しましても、内閣官房主催の会議を昨年の秋から行っております。もちろん、大会組織委員会、東京都、関係者が入って行っておりますが、その後、大会組織委員会が主体になって、このコロナ対策のオペレーションをなされているかと思うのですけれども、全体のスケジュール感でいきますと、観客をどう入れるかというところの議論とか、そういったコロナ対策周りでのオペレーション、まだ決まっていないところがたくさんありまして、このサステナビリティというところでも、廃棄物の関係でいえば、PCR検査的なところの医療廃棄物、それから、温暖化対策的なところでも、観客を含めた部分でCO₂排出量の増減というのが見えてくるかなと思っております。

もう一点は、一方で、恐らく環境省さんも触れられるかと思うのですが、昨年12月25日に官房長官をヘッドとした国・地方脱炭素実現会議というものがございまして、こちらは脱炭素に向けたロードマップというものをひいていこうということで、12月に会議が開かれていまして、当時の12月の資料によれば、4月ぐらいに第2回、5月から6月にかけて第3回を開いて、その方向性をまとめていこうという、温暖化対策に関しては、こういった部分での政府の動きがございます。

以上、情報まで、御紹介させていただきます。

○崎田座長 ありがとうございます。林さん、突然お願いいたしました、ありがとうございます。この後も、御発言をどうぞ、よろしいところでしていただければありがたいと思います。

○林委員 承知しました。

○崎田座長 それでは次、環境省、永島さん、今日参加をしていただいておりますが、全体に関して何か情報提供、コメントをいただければと思います。

○永島委員 資料の説明の中でもありましたが、昨年10月に菅総理が2050年、カーボンニュートラルを表明しまして、それが日本全体で大きな潮流となり、世界的な評価も非常に高まっていると認識しております。今、林さんから紹介がありましたが、国・地方脱炭素実現会議、地域やライフスタイルの観点から脱炭素を進めていくという動き、それから、経済産業省中心になりますけれども、グリーン成長戦略ということで、2050年に向けたイノベーションを14の分野に分けて、風力発電とか様々な分野で進めていくというロードマップも出てきたところです。

それから、2025年には、大阪・関西万博が開催されるということで、こちら、いのち輝く未来社会の実現というテーマで、非常に環境という観点からも、深い関わりがあると考えておまして、政府全体としては、こういう一連の流れの中で、このオリンピック・パラリンピックにおける持続可能性の取組というものも位置づけながら、オリパラだけではない、その後に続くような取組、日本全体、世界全体の取組として位置づけて、進めていくことができればいいのではないかと考えているところです。

簡単ですが、以上となります。

○崎田座長 永島さん、ありがとうございます。今、内閣官房と環境省のお二方から、コロナ対応としてどういうふうに関わっていくかということの視点と、もう一つは、持続可能性に関して、非常に政府も大きく昨年後半から動いているというお話がありました。ぜひ今度のオリンピック・パラリンピックの開催をうまくレガシーとして次の社会に生かすという、そういう視点が本当に大事だというふうに思います。どうもありがとうございます。

それでは、東京都の上野さん、上田さんから一言、コメントいただければと思います。よろしくお願いします。

○上野委員 御指名ありがとうございます。東京都のオリンピック・パラリンピック準備局の上野と申します。

先ほどから、林様のほうからも触れておりました、今回の大会延期に伴うところというのは、当然コロナのことがございますので、我々、大会の運営に向けまして、先ほど触れていた国と組織委員会、それから東京都あるいは関連機関とともに、昨年12月2日に中間の整理というのをまとめまして、それに基づきまして、今、今年の7月の大会に向けての準備をあらゆる面から着実に進めているところであります。ただ一方、感染状況等ですとか、観客をどうするかというのは、春に向けてということですので、そこを手探りしながらやっているという状況でございます。

こういった中で、持続可能性に関しましても、非常に大切な取組でありますし、国の動き、あるいはこの後、私どもの環境局の部長からお話がありますが、そういった所管の動きですとか、東京都の動きですとか、そういったものも見据えながら、7月の大会開催に向けて着実に準備をしているといったような状況でございます。

雑駁であります、私からは以上でございます。

○崎田座長 はい、ありがとうございます。コロナ対応を具体的に詰めていくのは大変だと思います。ありがとうございます。

それでは、東京都環境局の上田様、よろしくお願いいたします。

○上田委員 東京都環境局の上田でございます。御指名ありがとうございます。

それでは、東京都の取組、ちょっと簡単に御説明をさせていただきたいというふうに思います。東京都は、一昨年の12月にゼロエミッション東京戦略を公表してございまして、2050年カーボンニュートラルに向けた施策展開を図っているところでございます。コロナ禍を踏まえまして、発表した後に、やはりコロナの状況に直面をしたということでございまして、御案内のとおり、欧州ではグリーン・リカバリーという視点を併せ持った形での対策をいろいろ打たれていると思いますけれども、私どもも、経済・社会の活動と環境施策とを両立させていくという意味で、持続可能な回復を目指しますサステナブル・リカバリーという視点を掲げまして、今、鋭意取り組んでいるところでございます。また、国でも同じような動きございますけれども、デジタルトランスフォーメーションも、こういった視点も捉えて、現在、様々な施策の展開をしているというところでございます。

御案内のとおり、ここ数か月の間に、非常にゼロエミッションの取組というのは、世界中で加速してございます。先生方、御案内のとおりかと思いますが、社会の変革を

促す大きなうねりをもたらしているというふうに認識してございまして、そういう面で、一部こういった考え方が今回の追補版にも盛り込まれていると思いますけれども、私ども、2020大会と歩調を合わせながら、東京の発展に貢献していきたいというふうに考えてございます。よろしくお願いいたしますと思います。

私からは以上でございます。

○崎田座長 はい、東京都環境局の上田さん、どうもありがとうございます。今、オリンピック・パラリンピック準備局の上野さんと環境局の上田さん、お二人にお話しいただきましたが、やはり感染症対策でどうしっかり実施していくかということと、もう一つは、この分野でサステナブル・リカバリーというお話がありました。そういうことで、非常に社会、世界の期待が高まる中で、しっかり取り組んでいくというお話がありました。どうもありがとうございます。

こういうようなお話を踏まえて、委員の皆さんから、それぞれ御専門分野などで関わっていただいていますので、どんどん御質問や御発言、あると思います。

それでは、お待たせいたしました。10ページ以降の気候変動、資源管理など、各分野あります。ぜひ御発言いただければありがたいというふうに思います。よろしくお願いいたします。

○関委員 よろしいでしょうか。

○崎田座長 おはようございます。よろしくお願いいたします。

○関委員 おはようございます。よろしくお願いいたします。

御説明ありがとうございました。私からは3点ほど、簡単にコメントを申し上げたいと思うのですが、いただいた資料の16ページ、人権・労働、公正な事業慣行等のところだと思うんですが、冒頭に書いてありますけれども、日本政府の行動計画ですね、ナショナルアクションプランが10月16日に発表されて、これは過去1年間の動きとしては非常に大きい、節目となるような動きだったというふうに思います。これについても少し掘り下げて書いたほうがいいんじゃないかなという気がします。一つは、これは、策定までにマルチステークホルダーで諮問委員会ですとか、作業部会というのを構成して、様々なセクターがそこに参加して、取りまとめたんですね。このプロセスは、非常に意味があったというふうに思います。ここに書いてありますように、荒田部長もこの作業部会に参加されて、組織委員会もここに関与をして、こういったものを作り上げたということなので、ここについ

ては特に言及をしたほうがいいのではないかなというのが1点ですね。

それから、21から22にかけて、持続可能な調達に深い言及がされていて、22ページのところで、持続可能な消費の推進ですね。RSP0加盟企業が大きく増加するというふうに書いてあって、これは大きな意味合いがあると思うんですね。持続可能な調達基準ができて、企業の取組を加速した。もちろんそれだけで増えたわけではないんですけども、そういう加盟企業の増加、日本企業が2017年から19年ぐらいで倍増しているんですよ。かなり大幅に増えているんです。ですから、そういったことも、できれば具体的な数値なども入れて、そこにこの基準の策定というのが影響しているというような書き方をしたらいいのではないかな。増加の数字なんかも具体的にそこに載せてみたらどうかと思います。

それから、3点目、情報発信に関してなんですけども、この1年、非常に御苦労があったんだと思うんですよね。困難な状況だったと思います、会合等々を開けないというようなことで。ですから、その中でも、例えば、幾つか出ていましたけどオンラインのウェビナーとか、いろんな形で工夫をされてやっているわけで、この辺りは、特にこの困難な状況下でどういう創意工夫をしてやっていったんだと。具体的に幾つか事例も挙がっていましたが、何回ぐらい、どんなところで、どんなふうにやったんだというような情報発信についての実績も特に強調して、そして工夫したことなんかに触れながら、書かれたらいいのではないかなと思います。

以上、3点です。

○崎田座長 関さん、ありがとうございます。

今、三つ御発言がありました。この後、これに関して事務局からコメントをいただければと思いますが、1番目は人権・労働に関する日本政府の行動計画づくりには、組織委員会も参加をして実施したり、作業部会が参加型で行われた、こういうことも大変重要で、しっかりコメントを入れたほうがいいのではないかと。2番目が、持続可能な調達に関してもRSP0の加盟企業が倍増し、こういうことは、やはりオリンピック・パラリンピックで調達基準ができたということが効果を上げているのではないかと。そこをしっかりと入れたらどうか。最後は、情報発信に関して困難な中で工夫していただいていると。もう少し具体的に、そこを書いたほうがいいのではないかとというふうに御発言いただきました。積極的に御発言ありがとうございます。事務局のほうから一言コメントをいただければありがたいというふうに思います。

○杉本持続可能性計画課ディレクター 崎田先生、ありがとうございます。

○崎田座長 おはようございます。よろしくお願いいたします。

○杉本持続可能性計画課ディレクター 人権担当しております杉本です。

1点目の質問、NAPに関して、マルチステークホルダーの関与で作られたというような御指摘、承りました。書きぶりに配慮していきたいと考えます。この取組、具体的なナショナルアクションプランのことに限らず、このマルチステークホルダーのエンゲージメントというのが組織委員会の取組において、極めて大切だと思っております。御紹介しました、会場における人権対応ガイドラインにおいても、資料にも書かせていただきましたが、様々な関係者の方々やNGO、過去大会、サッカーのFIFA、あるいは企業の方々、人権・D&Iに関わるNPOの方々の意見を広く取り入れて、皆さんの取組の集大成が、この東京2020大会に生かせるような、そしてその後の大会にもつなげていけるような取組でやっております。関さんの御指摘、非常に重要だと思いますので、全編を通じてマルチステークホルダーの関わりの部分は読者の方に理解していただけるように検討していきたいと思っております。ありがとうございました。

○日比野持続可能性事業課長 持続可能性部の日比野と申します。調達を担当しております。

関委員、御意見、ありがとうございました。2点目の御意見についてコメントさせていただきますと、関委員からも御紹介がありましたように、RSP0の加盟企業、今大変増えておりまして、今調べましたところ、日本で229社ということですからかなり増えていますし、これは企業の数でいうと世界で4位まで上がっているということで、大変すばらしいなと思っておりますし、こうした数字について追補版の中で触れることは、ちょっと検討したいと思っております。これがオリパラの、我々の取組の効果がどのくらいあったのかというのをなかなか定量的に測定するということは簡単ではありませんけれども、ただ、このパームに限らず、この東京大会の取組があったということで刺激になったとか、そういった御意見を企業の方からいただくこともありますので、そういった声も御紹介するような形で、追補版で触れられないかということは、ちょっと検討できるかなと思っております。

私からは以上です。

○大谷持続可能性企画課長 情報発信に関しまして、持続可能性企画課長の私で大谷でございます。御意見いただきまして、ありがとうございます。

御指摘いただきましたとおり、様々な制約があったことは事実でございますが、一方で、延期になった期間をいかに有効に活用するかということも重要でございますが、御紹介

したような取組も進めているところでございます。御指摘いただいたように、どういう工夫をしたのかですとか、もう少し内容が、より具体的に分かるように、追補版の作成を進めていければというふうに考えております。ありがとうございます。

○崎田座長 ありがとうございます。関委員から積極的なアピールをするようにというあたたかいコメントをいただきましたので、今、お三方からお返事いただきました。ありがとうございます。

手が挙がっている方がいらっしゃるんですが、すみません、こちらから土井さん、すみません、人権・労働とかですね、こういう分野で参加をしておられましたけれども、今、関委員の御発言と分野は重なってまいりますので、何か一言コメントがあればお話しいただければと思います。

土井委員、よろしいですか。（状況メモ：土井委員の通信状況が不調。）

それでは、ちょっと後ほどまたお声かけしたいと思います。

今、手が挙がっているのが、藤野委員と、その次に相馬委員から手が挙がっております。両者とも脱炭素のところの委員でいらっしゃいますので、お二人続けて御発言いただくようにしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

では、まず藤野委員からお願いします。

○藤野委員 どうもありがとうございます。このコロナ禍で、非常に御努力いただいて、ここまで準備できているということに対して本当に敬意を表したいと思います。

特に脱炭素のところで、実現のために、カーボンオフセットですね、御協力いただいた企業なり事業者の皆さんに、こちら感謝申し上げたいと思います。予想を超えて、当初予定していた量を上回るカーボンオフセットというものが得られるということで、実質的なカーボンマイナスにつながっていくというところで非常に感謝申し上げます。再エネも大分進んできていて、大会期間中の再エネ100というのは、ほぼ実現できそうな見込みだと思うんですけど、一つ、これは脱炭素ワーキンググループのときにも議論になっていましたが、今のところグリーン電力証書なりを充ててやる場合もあるんですけど、契約の在り方等も、来年度いきなりできれば一番いいんですけども、できないとしても再来年度、それ以降、できるだけそういうのが目途がたつように、引き続き、これを契機にして、レガシーにもなるような形で大会を実施する施設におきまして、RE100、自然エネルギー100%の調達というものにつなっていくように、特に、既存の設備も当然そうなんですけど、恒久設備は特にですね。例えば、国立競技場なり国が所管するところは特に率先して

RE100を実現していくような道筋を立てて、それが最終的な大会報告書の中に含まれるような、継続した御努力、もしいただければというふうに思いますので、関係機関の方々、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

○崎田座長 ありがとうございます。藤野委員、ありがとうございます。カーボンオフセットが今、想定以上にしっかり集まって、カーボンマイナスになれそうだということ、感謝のお話、そして、再エネを100%調達というのが今回、東京2020大会期間中に予定していますけれども、そういう契約を継続して、施設の契約の在り方の改善にレガシーとしてつながっていければありがたいというコメントがありました。ありがとうございます。

それでは、相馬さん、やはり脱炭素のところに御参加いただいた小西委員の代理ということで御参加いただいています。よろしくお願いいたします。

○相馬委員（小西委員代理） 小西の代理で参加しておりますWWFの相馬と申します。今日は、ちょっと小西が別の予定で参加できず、申し訳ございません。私からは、脱炭素ではなくて、ちょっと持続可能性に配慮した調達のほうに関して幾つかコメントさせていただきたいんですけれども、よろしいでしょうか。

○崎田座長 大丈夫です。よろしくお願いいたします。

○相馬委員（小西委員代理） ありがとうございます。

まずコメントなんですけれども、スライドの22番のところ、持続可能な消費の推進というところに関しまして、先ほども関委員と日比野様のやり取りを聞いておりまして、そのやり取りでもありましたとおり、RSP0加盟企業の増加について言及されていらっしゃるんですけれども、確かに加盟企業が増加したというのは大変喜ばしいことだと思います。一方で、そのRSP0の普及に対して、その調達コードであるとか、東京大会という組織委員会のこの調達基準、調達コードなどがどのぐらい貢献したのか、あるいは、必ずしもこれらの動きとは関係のない理由で増えたのか、これだけだとちょっと分かりづらいように思いました。ですので、実際にこのオリンピック東京大会向けに、どのぐらい、例えば、そのRSP0認証油の調達量が増えるのか、あるいは、どこから調達しているのかといった情報が公開されて、初めて持続可能な調達の進捗というものを把握できるのではないかと思います。

加えて、認証の取扱企業が増えたのはRSP0だけではなくて、例えば水産物でいいますとMSCとかASCなど、水産関係のものや、また紙や木材のFSCなど、ほかの認証についても増

えているのではないかと思うんですけども、どのような状況なのかという辺りも気になっております。ここまでコメントです。

その上で、ちょっと2点ほど御質問さしあげたいのですが、1点目は、大会前報告書の追補版で、何をどこまで調べていただけるのか、どこまで情報を開示していただけるのかという点を伺えたらと思います。調達コードで基準を定めたコモディティ、パームだけではなくて、全てのコモディティについて全て情報を調査、開示いただけるという理解でよろしいのでしょうか。

もう一つ、二つ目の御質問ですけども、水産物に関してなんですけど、大会も半年を切っているということで、恐らく既に調達先の出発点については思っているんですけども、現時点で、例えば品目、あるいは重量ベースで認証がどのくらいカバーしているのかといった点が気になっているんですけども、こういった数字は日々変動するもので、現時点の数値を公表してほしいということではないんですけど、そういった数値をきちんと把握できる体制が、今現在取られているのかという点についてお伺いできればと思います。

以上です。

○崎田座長 ありがとうございます。今、相馬さんから質問が出ました。持続可能な調達に関して、やはり様々な調達コードの貢献ということ、いろいろ考えられるけれども、それがどのくらい本当に貢献したのかとか、そういうことの調査の把握ができていいのか、そして、今後情報公開する予定があるのか。それは、例えば、水産とか森林とか、いろいろなことがあります。そういうことに関して、どういう状況か、今後どうするのか、その辺のコメントをいただきたいというふうに思います。

なお、先ほどの藤野委員の御発言に関して、脱炭素のところの、事務局、何か追加コメントがあれば、お話しいただければと思います。よろしくお願いします。

○日比野持続可能性事業課長 調達担当しています、日比野でございます。コメントと御質問ありがとうございます。

まず最初にいただいたコメントに関しましては、おっしゃるとおりというか、先ほど私も申し上げましたけど、RSPOの加盟企業が増えているというところについて、これが、大会の取組がどのくらい影響したのか、あるいは別に大会がなくても、もちろん、もともとやるつもりだったというところもあると思いますし、それをどのくらい影響があったのかというのを、正確に測定することはなかなか難しいだろうなというのは私も思っております。

す。そういう中で、オリパラ向けというか、認証油がどのくらい追加的に調達、日本に入ってきたのかとか、そういったのをまたさらに把握するというのが、ちょっとすみません、その辺がどのくらいできるのかどうかというのは、私、今、技術的にちょっと分からないんですが、やるとしてもいろんなところにお話を聞いてとかという、どうしても定性的な話になっちゃうかなと思っています。

あと、そうですね、これもコメントにありましたように、別にパームだけに限らず、水産物とか、あと紙とか木材についても、認証を取っている生産者ですとか、あとは流通や加工の段階の事業者さん、要はCoC認証を取っている企業さんとか、こうしたところも、こういった分野でも増えていると思いますし、1回、進捗状況報告書の中では、そういった全体の認証の増加の動きとか、そういったものを御紹介しましたけども、そういったものを我々も、もう一回ちょっと数字を見直してみたいなと思っていますし、そういった状況もちょっとウオッチしていきたいと思っています。

御質問にあった部分につきましてですけども、要は、実績をどうするのかというところですが、これについては実際なかなか調達されるのが大会中の食材ですとか、そういったところがメインになってきますので、実績が出た後の大会後報告書の中で実績を取りまとめていきたいなと思っていますし、そうですね、現時点では今、その実績を捉えられているわけではありませんけども、これから捉えていくつもりですし、そのために、もともと事業者さんに出してもらった様式とか、そういったものはある程度決めていまして、周知もしていますので、そういったものをいただいて実績を御報告できるようにしていきたいなと思っています。

以上でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。今の点が、大会後報告書というのが予定されていますので、そこでできる限りの定量的な把握とか、そういうこともチャレンジしていただければありがたいというふうに思います。それは私のコメントということで、よろしくお願いします。

なお、次、脱炭素のところでは何かコメントがありましたら。先ほどの藤野さんの御発言に対して事務局のほうから何かコメントはありますか。

○牧野持続可能性計画課ディレクター 気候変動の担当の牧野でございます。

○崎田座長 よろしく申し上げます。

○牧野持続可能性計画課ディレクター 先生、どうもありがとうございました。

カーボンオフセットにつきましては、東京都様や埼玉県様のお取組によりまして、たくさんの方の企業の方や事業者の方に参加いただいたことを本当に感謝しております。また東京都さんや埼玉県さんに非常に御努力いただいたということもお聞きしておりますので、大変ありがたく思っております。

再エネの電力につきましては、組織委員会のほうで契約させていただくところとか、大会パートナーに供給させていただくところとかを100%再エネということでご供給いただく方向で進めておりまして、この辺につきましては、どこの発電所から供給されるのかなどの詳細を、後日お示しすることができるというふうに思っております。また、公設会場などで再エネ電気を供給できない場合は、グリーン電力証書による再エネ化をしていく予定でございまして、こちらのほうも引き続き、努力していくところでございます。

また、藤野先生のおっしゃいました新規の恒久会場において、今後再エネの電気がずっと使われていくことになったらということでもございましたが、今、実際に東京都様の新規恒久会場において、通常よりも再エネ比率の高い電力の契約に向けて検討されているというふうにお伺いしております。また、大会後にも、そのような再エネの電気が使われるようになったという、今後使われていくことになったというようなことを発表するような機会があればいいなというふうに思っております。ありがとうございます。

○崎田座長 ありがとうございます。着々と進めていただいているということで、コメントいただきました。どうもありがとうございます。

それでは、委員の方、あと陳委員と土井委員と中村委員、こちらからのお願いですが、どうぞ質問、コメントをしていただければありがたいというふうに思います。

○土井委員 コメントさせていただいてもよろしいですか。

○崎田座長 土井さん、はい。よろしくお願いいたします。

○土井委員 ありがとうございます。人権の面から2点ほど申し上げさせていただければと思います。

1点目が、この報告書の中で人権に関わる点が2点あります。一つが調達の部分ですね。これはワーキンググループのほうでもいろいろ問題になりました。調達のコードの作成などに向けていろいろ御努力があったことを感謝しているんですけども、一方で、通報受付窓口の実施状況というのが非常に数が少なくて、申立ての数も少ないのが非常に残念です。しかも、申立てがされた中で処理した案件というのは、結局、1件もないということになっておりまして、この点が非常に残念だなというふうに思っています。通報受付窓口

のアクセシビリティをもっと上げていくということ、アウトリーチをしていくということなどに、すごく課題があるのではないかと思っているというのが1点ですね。なので、この通報が、あと大会終了まで少しの期間とはいえ、より増えてしっかり処理がされるようにということの努力を、ぜひしていただきたいというふうに思っております。

あと、人権・労働、公正な事業慣行等の部分なんですけれども、まず2点すごく前向きだと思っていることがあります。1点目はプライドハウス東京レガシーを公認プログラムとして組織委員会がいろいろ御協力をされてきているという点です。プライドハウス、長年五輪の際には建てられてきたLGBTQに関する情報発信スペースですけれども、これが東京大会から初めて五輪の公認のものになったということで、この決定などに関与された関係者の皆様の御英断等がとてもすばらしかったと思っております。人権関係は環境などと比べると、本当に打ち出せるものがすごく少ないということを、この場でも何度も申し上げてきました。そうした中で、このプライドハウスと組織委員会がコラボレーションすることが、五輪として人権を発信できる非常に数少ない機会じゃないかということも過去にも申し上げたことはあったんですけど、実際にこうやった公認プログラムになったということで、とても喜ばしいと思っています。これを土台にしながら、LGBTインクルージョンに向けて、この五輪組織委員会がより積極的に発信して、本当にレガシーを作っていくことに期待したいですし、私とかも、できる限りのことをさせていただきたいというふうに思っています。

あともう一点よいと思う点は、会場における人権対応ガイドラインというものが、しっかり作られたということで、これも関係者の方々の大変な御努力があったことではというふうに思っております。本当の本番でうまく生かせるようになると今後のメガスポーツイベントにとっても大きな意味があるかなというふうに思っております。

ただ、以前から指摘しているとおりなんですけど、それ以外の具体的施策が、非常に少ないなということがあります。概要の部分に世界的に、この人権の課題がBLMを含め、様々、非常に高まっているということの指摘があるんですけど、ただ、具体的施策は、私から見ると、今、申し上げた二つの点以外にはほとんどないというような状況見えます。やはり、より積極的に発信できる、積極的に五輪としてエンゲージできることをどんどん探して発信していく、行動していくということが望まれるというふうに思います。

以上です。

○崎田座長　ありがとうございます。

後で関係の事務局からコメントをいただければありがたいというふうに思います。

それでは、次は陳委員か中村委員、御発言いただけますでしょうか。

○中村委員 もしよろしければ、中村のほうから質問とコメントをさせていただきたいと
思います。

○崎田座長 よろしく願いいたします。

○中村委員 私、大気・水・緑・生物多様性のところに関わってきております。14ページ、
15ページのところになります。この中で、二つ申し上げたいんですが、1点は、この東京
大会の大きな懸念材料が暑さ対策、それからそれに関連をして、お台場海浜公園の会場で
の水質の問題がございました。これは、1年延期になったということで、様々な対策が技
術的に検討され、その結果がうまく生かされる要素が出てきたなというふうに思っており
ますので、ぜひその辺りを強調してまとめていただきたいと思います。これが1点目でご
ざいます。

それから、もう一点目、生物多様性のところになります。これは、今日は二つの例が御
紹介されていて、これは大変結構な例になりますけれども、この個別で幾つかばらばらと
整理をされるというよりは、やはりある一つまとまった視点で整理をされたほうがいいの
ではないかなというふうに思いました。この2点も含めて、さらに様々な活動も行われて
おりますので、私としましては日本で行われる、やはり日本独自の取組をやってきた里海、
里山というような視点から、こういった生物多様性の幾つかの事例をうまくまとめて整理
をして、発信していただくということが重要なのではないかなというふうに思っておりま
す。ぜひ御検討いただきたいと思います。

以上です。

○崎田座長 中村委員、ありがとうございます。今の生物多様性に関しての暑さ対策とか
水の対策、これをうまく1年の延期を生かしてほしいということ。それと、生物多様性の
発信に関して、日本全体の状況をもう少しまとめて、この機会に発信したらどうかという
お話、後ほどコメントいただければと思います。

陳委員は、いかがでしょうか。

○陳委員 よろしいでしょうか。

○崎田座長 はい、どうぞ。

○陳委員 御挨拶が遅くなって恐縮でございます。連合の陳でございます。前任の丸田と
同様、引き続き、よろしくお願いしたいと思います。

まずもって、この間の皆様のこういった取組に対して、まずは敬意を表したいと思います。

その上で、私からは1点、コメントをさせていただきます。資料では14ページの下段になりますが、暑さ対策でございます。この間の新型感染症対策との両立ということで、なかなか皆さんも御苦労されているかと存じますが、やはり東京の夏は、もう皆さん御承知のとおり、尋常ではない暑さですので、特にマスクについては、私自身も去年の夏場にも経験したことでございますが、マスクを着用しながら暑さをしのいでいくというのは相当苦しいものがございますので、アスリートは言うまでもなく、観客の方、さらに私ども労働組合の立場で言いますと、大会の運用スタッフの安全衛生の観点からも、専門家の方々ともよくお話しただいて、コロナ対策と、暑さ対策との両立を、ぜひ図っていただきたいということを申し上げたいと思います。

私からは以上でございます。

○崎田座長 どうもありがとうございます。皆さんから御意見いただきました。

私、資源管理のところも担当しておりましたので、一言コメントさせていただきたいと思いますが、実は今回の資源管理、調達物品の99%リユース、リサイクルとか、運営時廃棄物の65%はリユース・リサイクルとか、実は今の日本の現実の社会の商習慣からいえば、とか、生活、ライフスタイルからいえば、かなり厳しい目標を設定し、取り組んでいただいております。このようなことを、ぜひオリンピック・パラリンピックで実践するのはもちろんですが、その次の社会にレガシーとして生かしていただけるように、そういう配慮をしつつ、ぜひ取り組んでいただきたいということ、その辺、御関係の方からコメントいただければありがたいというふうに思います。

というふうに今、お話をしまして、あと7、8分という状況になりました。土井委員のコメントに対するお話、それと暑さ対策は中村委員、陳委員からコメントがありました。それに関して、そして生物多様性、最後に資源管理ということで、事務局からコメントをいただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。

○日比野持続可能性事業課長 日比野でございます。お世話になります。

土井委員から御意見をいただいたところについて、お返事というかコメントをさしあげます。そうですね、御意見にありましたとおり、通報受付窓口、これの周知については、これはもう常に課題と思っております。我々としても、大会中に活動するコントラクターの皆さんに周知を図ったり、また解説の資料などを作って、なるべく分かりやすい形で皆

さんに御提示できるような、そういった資料も作ったりして努力をしているところでございます。これについては引き続き、できることを継続してやってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○崎田座長　ありがとうございます。

では、次、お願いいたします。

○杉本持続可能性計画課ディレクター　人権担当の杉本です。

土井先生、プライドハウス東京レガシーの件と、会場における人権対応ガイドラインの件、評価いただきありがとうございます。また、厳しい御意見をいただきました。それに比べて、ほかにはなかなか取組が少ないねという厳しい意見をいただきました。高い期待をかけていただいていると認識いたしまして、頑張っていきたいと思っております。

人権に関しては、まさに理念的なものだけではなく、実際の実践というものが極めて大事だと思っています。これはD&Iも含めてです。ですので、これから大会開催時に向けていろいろやっていきたいと思っています。幾つかちょっと御紹介しますと、まさにプライドハウス東京レガシーに関しては既にもう、多くの国際的なステークホルダーの方たちから高い関心をいただいております。ですので、この連携の場を生かして大会時には現場発の、皆さんが身近に感じていただけるD&Iの情報等を発信できるように検討していきたいと思っております。

また、ガイドラインに関しましても、ガイドラインは作りましたが、これはまさに大会で、そのとおりちゃんと、そのとおりというか、適切に実践されてこそ意味があることだと思っています。世の中において、この人権に関する考え方は大きく動いています。スポーティングアクティビズムもいろいろ議論があるところですし、差別に対するいろんな問題意識も高まっていますので、それらの状況に適切に対応しながら、実際に東京大会の行動を通して、皆様に御理解していただけるように努力していきたいと思っております。

以上でございます。

○崎田座長　ありがとうございます。

では、次、暑さ対策、お願いいたします。

○藤代持続可能性施設課長　暑さ対策を担当しております、藤代と申します。中村委員、陳委員、ありがとうございます。

御質問の点でございます。まず1点目の暑さ対策のところでございますけれども、あと

水質の部分ですね。暑さ対策につきましては、これまで計画してきた取組を基本的にはベースにしてございますけれども、資料にも御記載をしたところですが、この間、コロナによる影響ということもございますので、当然暑さとコロナを両立しないといけないというところですね。陳委員からもありましたように、マスクを着用すれば、やはり熱中症のリスクが上がるということも言われておりますので、マスクをきちんと着用して、感染症対策というのもきちんと図りつつ、その上で、暑さの面でもきちんとケアをしつつということで、それぞれが両立できるような対策を今、所管部署のほうで検討をしているところでございますので、そういったところも報告書に記載をできればなというふうに考えております。ありがとうございます。

それから、中村委員からありました生物多様性の部分ですが、御意見、ありがとうございます。なかなか日本独自の全体の取組ですね、今回の大会前報告書の追補版か、それか大会後の報告書になるか、ちょっと分かりませんが、そういった視点もできる限り取り込んで発信できるような形で検討をさせていただければというふうに思います。

ありがとうございます。以上でございます。

○崎田座長 それでは、資源管理のほうをお願いいたします。

○山下持続可能性計画課長 資源管理を担当してございます、山下でございます。

廃棄物の65%のリサイクル及び調達物品のリユース、リサイクル99%に向けまして、引き続き、関係者、関係機関と連携しまして、しっかりと進めてまいりたいと考えてございます。

私からは以上でございまして、座長、林参事官補佐のほうから手が挙がっておりますので、お伝えいたします。

以上です。

○崎田座長 ありがとうございます。

林さん、お願いいたします。

○林委員 すみません、内閣官房の林です。

先ほど、牧野様からあった再エネのところのコメントだったんですが、冒頭、私のほうから御紹介させていただいた脱炭素のロードマップの、この取りまとめが本年5、6月でございまして、この追補版とのタイミングとだいぶシンクロしてきます。先ほどの御説明の中で、東京都の恒久施設も再エネに切替えて、今、検討していただいているというお話なんですけれども、非常に重要な話かなと思っていまして、ぜひレガシー、その先への

効果という意味で、追補版に間に合うのであれば、そういうところの記述も、国立競技場はどういうふうに組織委員会から働きかけをされているか、ちょっと把握していないですけども、そういったところも含めて2030ではニュートラルというのが条件にもなりますので、ぜひ追補版なのか大会後の報告書なのか分かりませんが、しっかりと次につながるような優良事例を情報発信いただけると良いのではないかなと思いました。

以上です。

○崎田座長 大事なお話、ありがとうございます。やはりレガシーとして、どう広げていくかということが、そこを担保することが大事だと思います。ありがとうございます。

すみません、画面が見られていないんですが、ほかに手を挙げておられる方はいらっしゃいますでしょうか。

○永島委員 もしよろしければ。

○崎田座長 どうぞ。

○永島委員 環境省の永島です。

全体に関してなんですが、一言よろしいでしょうか。

○崎田座長 はい。どうぞ。

○永島委員 この会議に何度か参加させていただいて、その都度、情報発信が非常に大事だという話がございました。このコロナ禍で持続可能性に関する関心が高まっていて、その意味で、この報告書に関する情報的な価値も高まっているのではないかと考えております。そして、またコロナの下ではリモートで大会を視聴されるという方も増えてくるのではないかと考えておまして、その意味で大会において、どういうふうに、このサステナブルの部分が報道されるかというのは非常に、前にも増して重要になってきていると考えております。その意味で、この報告書は非常にまとまっていると思うんですが、記者目線で見ただけで、どういうところに関心があるかとか、どういうふうに報道されるだろうかということも踏まえて、メリハリをつけるような形でまとめて提供するというのも、ぜひ本大会に向けて考えていただけたらいいのではないかなと少し思いました。環境省としても、できる協力は積極的に行っていきたいと思います。

以上です。

○崎田座長 ありがとうございます。永島さん、大事なメッセージをありがとうございます。持続可能性への関心は高まっていると。レガシーとして生かすということを意識して、やっぱりしっかりとまとめてほしいということ。メリハリをつけてというお話がありまし

た。その視点からいきますと、今回の資料でショーケースとして最初にまとめますと書いてありますが、そこに100%再生資源のメダルの話とか、木材を集めてみんなで選手村のお部屋を作るとか、何かいろいろキーになるプロジェクトがありますので、そういうのをしっかり入れていただければありがたいなと思います。

皆さん、すみません。私の進行、不手際で少し12時を回りました。お手が挙がっている方がいらっしゃいましたら教えていただけますでしょうか。

○山下持続可能性計画課長 事務局です。ただいまお手を挙げていらっしゃる方はおられません。

○崎田座長 分かりました。

それでは、皆さんありがとうございます。今日、やはりお話のキーになるのは、最後に私、永島さんの御発言のまとめで申し上げたように、持続可能性への関心が高まっているということ、それと、今回取り組んだことを社会でレガシーとして、ぜひ生かしてほしいというメッセージ、あるいは具体的な優良事例を発信する、そういうふうにつながるものがとても大事だと思いますので、これから実施までの間の取組もそうですし、後の報告書で具体的に紹介いただくとか、いろんなことが大事になってくるのではないかというふうに思っています。

では、皆さんの御意見、まだまだもしありましたら、事務局に直接お寄せいただければありがたいと思います。

では、事務局のほう、最後の今後の御連絡などをよろしくお願いしたいと思います。

○大谷持続可能性企画課長 事務局でございます。最後に、今後の進め方について、御説明させていただきます。

様々な御意見をいただきまして、ありがとうございます。いただきました御意見を基に、本追補版のさらなる検討を進めてまいりまして、2月以降に、また委員の皆様にご追補版の本文の案を御確認いただく期間を設けさせていただきますので、またその際にも御意見いただけたら、よろしく願いできればというふうに思います。

以上でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。追補版の、まだ内容のやり取りを続けていただけるということですので、その際にまた御意見をいただければありがたいというふうに思います。皆さんの顔が見られないでさようならはつらいのですが、小宮山先生はまだいらっしゃいますか。

○大谷持続可能性企画課長 大谷でございます。退室されたようでございます。

○崎田座長 分かりました。

それでは、皆さん、少し進行が長くなってしまいまして、大変申し訳ございませんでした。

それでは、これで終わりたいと思いますが、荒田部長、何か最後に一言コメントがあれば、お話しいただければと思いますが。

○手島総務局長 崎田先生、局長、手島でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。

○手島総務局長 本日、座長、先生をはじめ、皆様、本当にお忙しい中をお集まりいただきまして、また活発な御意見、貴重な御意見を頂戴いたしまして、ありがとうございます。先生方からいただきました御意見をしっかりと追補版のほうに、また反映させていきたいと思っておりますし、最後に先生にまとめていただきましたけれども、やっぱり小宮山先生、崎田先生がいつも言われておりますけれども、やっぱり発信力、せっかくいいことをしていてもそれが伝わらないということは本当に残念なことだというふうに思っております。関先生からもございましたけれども、人権に関してNAPですとか調達のRSP0など、成果が出ているものにつきましてはきちんと書き込んで、より国民、都民の皆さんに分かっていただく、そういう努力をこれからもしていきたいと思っております。

冒頭、山本副事務総長のほうからもございましたけれども、私ども持続可能性、この理念は本当に大事だというふうに思っておりますし、コロナ禍がございまして、状況は変化しておりますけれども、着実に持続可能性の取組というのは進めております。この取組が、繰り返しになりますけれども、社会に定着をしていく、また、次のパリ大会、北京の大会もありますけれども、につなげていく、こういうことはすごく大事だと思っておりますので、引き続き頑張っていきたいと思っておりますので、いろいろと先生方の御支援、御鞭撻をいただければというふうに思っております。

本日はどうもありがとうございました。

○崎田座長 ありがとうございます。手島様、本当にありがとうございます。そして皆さん、お疲れさまでした。

○荒田持続可能性部長 委員の皆様、どうもありがとうございました。

それでは、これにて会議を終了いたしたいと思っております。どうもありがとうございました。